

第3学年 技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

3年3組 男子21名 女子19名 計40名

指導者 中林 竜也

【授業】13:10～14:00 会場 3年3組（4階）

【協議会】14:15～15:25 会場 3年3組（4階）

1 題材名 幼児との関わり方（A（2））

2 題材について

（1）題材設定の趣旨

本題材では、課題をもって、家族や地域の人々と協力・協働し、よりよい家庭生活に向けて考え、工夫する活動を通して、家族・家庭の基本的な機能について理解するとともに、家族・家庭生活に関する知識及び技能を身に付け、これからの生活を展望して、家族・家庭や地域における生活の課題を解決する力を養い、家庭生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成することをねらいとしている。

綿引(2013)は、家族・保育について学ぶ意義には次のようなことがあるとしている。「家族について考えることは、自分の生き方や暮らし方、価値観を問うことになる。固定的な家族のイメージや社会通念で当然とされている言説にとらわれず、自分にとって心地よいと感じられる生き方や暮らし方、人間関係を柔軟に選んだり創造したりする。」「家族は私的な領域であるが、社会のあり方から大きな影響を受けている。家族にかかわる選択や判断は、気づかないうちに政治によって導かれていることもある。よりよい家族生活を営むためには、個人や家族の努力だけでは難しく、家族をサポートする社会をどのようにつくるかにかかっている。社会の構築や変革に主体的に参加する市民性を育む。」「子どもと大人、夫婦、高齢者と若い世代などいろいろな人々と、尊重し合えるよりよいパートナーシップを築く。」「家族を否定するわけではないが、人生のその時々状況により家族を超えたさまざまな人とつながりネットワークを構築する。」としている。このことから、家庭科で幼児について学ぶことは保育者育成や子育て推進といった視点ではなく、社会で生きる様々な世代の人々と関わるための行動・考え方を学ぶために存在していると考えられる。

また、西岡ら(2023)は、小学生と中学生を比べて、『幼児のイメージ』と『幼児との関わり』では、中学生のほうが幼児に対して好意的なイメージをもっている一方で、幼児と関わることを『不安』にも感じている」としている。関わり方を学ぶことによって、コミュニケーションへの不安を取り除き、様々な世代の人々と協力・協働できる生徒の育成の足掛かりとしたい。

（2）生徒の実態

ほとんどの生徒は幼児と関わることに大変興味をもっており、春休み中に幼児と関わる上で一緒に遊びたいおもちゃを作成した。これまでの食分野での学習で、「健康・快適・安全」の「見方・考え方」を働かせていたため、自作のおもちゃによる誤飲や怪我を心配し、球を大きくしたり、角を丸くしたりしており、配慮して製作した様子が見られる。年の離れた兄弟姉妹がいる場合はその関わりも参考にしている様子が見られたが、それほど数は多くない。

幼児について学ぶことについては、親戚との関わり方に生かしたいという生徒も見られる一方で、電車内や町で出会ったときの関わり方に生かしたいという意見があった。生徒それぞれの考えを共有させながら、自ら立てた課題を検討させていくことで、社会で生きる幼児と関わり方は、どうあればよいかを考えられるようにしたい。

(3) 指導の構え

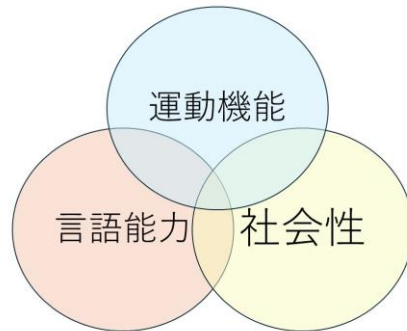
① 課題設定

自作のおもちゃを作り幼児と触れ合うだけでなく、触れ合い実習に向けて幼児との関わり方について課題を設定させ、計画を立て実践する。一連の過程を行うことにより、生徒と幼児のよりよい関わり方を求めようとする「協力・協働」の「見方・考え方」が働きやすくなると考える。本題材は、自分が幼児と実際に関わるため、学習課題を自分事として考えやすい。また、自分が作ったおもちゃなので、自分の課題に合わせて改良・再製作することができる。

② 学習過程

題材全体を通して、「幼児についての学びをどこに活かせるか」を常に考えさせていきたい。自分の家族で幼児がいる場合も学びを活かせるが、地域にいる幼児との関わりについて考えることによって、より身近で起こる可能性があることを実感させる。

また、個人の課題として、「どのように工夫して遊ばよいか」について、視点をもって考えさせる。幼児と遊びを通して関わるためには、どの活動も関わり方の「社会性」、体を動かすための「運動機能」、会話するための「言語能力」の視点のいずれか、または複数に関係することになる。3つの視点の関係については、以下の弁図で表せると考える。



それぞれの視点を相互に関連付けさせながら、幼児との関わり方を追究し、家族・家庭や地域における生活の課題を解決する力を養い、家庭生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成したい。

3 「見方・考え方」を働かせ、「深い学び」を実現する授業づくり

幼児の発達を考えた自作のおもちゃで遊ぶ活動を通して、幼児との関わり方の計画を立てたり、ロールプレイングをしたりする活動は、「運動機能」「言語能力」「社会性」を身に付けさせられる関わり方ができる生徒の育成につながる。

本題材で働かせたい見方・考え方は以下の通りである。

| 次 | 内容 | 時 | 見方・考え方 | | | |
|-----|---------|---|--------|----------|------------|------------|
| | | | 協力・協働 | 健康・快適・安全 | 生活文化の継承・創造 | 持続可能な社会の構築 |
| 第1次 | 幼児の実態把握 | 1 | ○ | | | |

| | | | | | | |
|-----|------------------|---|---|---|--|--|
| 第2次 | 幼児と関わるための課題・計画設定 | 1 | ○ | | | |
| 第3次 | 幼児と関わるための計画の改良 | 1 | ○ | | | |
| 第4次 | 附属幼稚園での触れ合い実習 | 1 | ○ | ○ | | |
| 第5次 | 触れ合い実習の振り返り | 1 | ○ | | | |

本題材では、「協力・協働」の「見方・考え方」を働かせつつ、幼児との関わり方について検討していく。課題解決に向かう中で、生徒が既習事項や生活経験、第1時で幼児を観察した様子と関連付けて意見交流したり、発表し合ったりする活動を通して、幼児の発達や生活の特徴を踏まえ、幼児に応じた関わり方を考えられることが生徒の「深い学び」の実現につながるものとする。

4 題材の目標

- 幼児にとっての遊びの意義や幼児との関わり方について理解している。 [知識及び技能]
- ◎ 幼児との関わり方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 [思考力、判断力、表現力等]
- 幼児の生活について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。 [学びに向かう力、人間性等]

5 全体計画（全5時間）

第1時 幼児の「言語能力」、「運動機能」、「社会性」等の視点をもたせながら、幼児の実態を把握させる。・・ 1時間

- 幼児と関わるための問題を見いだして課題を設定している。
【思考・判断・表現】（ワークシート・指導に生かす評価）
- 幼児との関わり方について、自分自身がもった課題の解決に主体的に取り組もうとしている。
【主体的に学習に取り組む態度】（観察・指導に生かす評価）

第2時 それぞれの生徒が設定した課題を共有し、幼児に対して自分のおもちゃで関わるための計画を作成させる。・・ 1時間

- 幼児と関わるための計画を考え、工夫している。

【思考・判断・表現】（ワークシート・指導に生かす評価）

| 「深い学び」のルーブリック | |
|---------------|--|
| 評価 規準 | ・ 幼児の「言語能力」の視点を考えることができている。 ・ 幼児の「運動機能」の視点を考えることができている ・ 幼児の「社会性」の視点を考えることができている |
| A | 評価規準をすべて満たしているのに加え、幼児に応じた関わり方に独自の工夫を加えている。 |
| B | 評価規準のすべてを満たしている。 |
| C | 評価規準の一部のみ満たしている。 |

第3時 立案した計画を共有し、幼児に応じた関わり方を再考させる。・・・・・・ 1時間（本時）

- 幼児との関わり方についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している。

【思考・判断・表現】（ワークシート・記録に残す評価）

- 幼児との関わり方について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。

【主体的に学習に取り組む態度】（ワークシート・記録に残す評価）

| 「深い学び」のルーブリック | |
|---------------|---|
| 評価 規準 | ・ 幼児の「言語能力」の視点をもって実践を評価している。 ・ 幼児の「運動機能」の視点をもって実践を評価している。 ・ 幼児の「社会性」の視点をもって実践を評価している。 |
| A | 評価規準をすべてについて、実践を評価できているのに加え、新たな課題について考察できている。 |
| B | 評価規準のすべてについて、実践を評価できている。 |
| C | 評価規準の一部のみ、実践を評価できている。 |

第4時 附属幼稚園に訪問し、幼児と自分のおもちゃで関わらせる。・・・・・・ 1時間

- 幼児との関わり方について理解し、中学生としてどのように振舞えばよいかに気付いている。

【知識・技能】（観察・指導に生かす評価）

第5時 幼稚園を訪問したことについて、学びを共有させる。・・・・・・ 1時間

- 幼児との関わり方について、実践を評価したり、改善したりしている。

【思考・判断・表現】（ワークシート・記録に残す評価）

- 幼児との関わり方について工夫し創造し、実践しようとしている。

【主体的に学習に取り組む態度】（ワークシート・記録に残す評価）

6 本時の学習（全3／5時間）

（1）指導目標

- ・ 立案した計画を共有することで、幼児との関わり方についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現することができる。
- ・ 幼児に応じた関わり方を再考することで、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善することができる。

(2) 展開

| 学習活動と予想される生徒の反応 | 指導上の留意点 |
|--|--|
| 1 学習課題を確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・言語能力、運動機能、社会性の全てを網羅していることが、幼児の成長に大きく関わり、幼児が楽しめることを確認する。 |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: 80%;"> 自作のおもちゃを通して幼児が成長するためには、どのような関わりが必要なのだろうか。 </div> | |
| 2 グループで「中学生役」「幼児役」に分かれ、ロールプレイングを行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・各々が前時までに計画していた関わり方を実践させる。 |
| 3 計画していた内容について、互いに意見し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすい言葉を使っていたつもりだが、無意識に難しい言葉を使っていた。(言語能力) ・自分はおもちゃの使い方を熟知していたが、初めて触る人にとっては、中学生でも難しそうだった。(運動機能) ・相手の表情が不安そうだった。どのようにしたらよいのだろうか。(社会性) | <ul style="list-style-type: none"> ・言語能力、運動機能、社会性について意見し合えるように助言する。 ・完璧な関わり方であったとしても、「この場合どうする？」などと聞き合うことで計画していた内容をお互いに改良しやすくできるように言い合えるようにする。 |
| 4 計画を個人で再考し、改善する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・言語能力、運動能力、社会性の3点に関わる上での大切なポイントであることを確認する。 |
| 5 計画について、全体で共有する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ゆっくり、はっきり話し、難しい言葉を使ってしまったら簡単な言葉に言い換える。(言語能力) ・自分がまず遊んでみて例を示し、手取り足取り教える。(運動機能) ・にこやかに関わり、目線を合わせる。(社会性) | <ul style="list-style-type: none"> ・代表して2ペアほど、ロールプレイングを全員の前で実演させて、改善案をよりよくするための参考にさせる。 |
| 6 自分が幼児に関わる上で特に大切にしたいことをワークシートに記入する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「言語能力」、「運動機能」、「社会性」を網羅した上での大切にしたいことを書かせるように助言する。 |

(3) 学習評価の観点

- ・ 幼児との関わり方についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している。 【思考・判断・表現】(ワークシート・記録に残す評価)
- ・ 幼児との関わり方について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】(ワークシート・記録に残す評価)

(4) 授業観察の視点

立案した計画を、実演を含めてグループでロールプレイングをさせたことは、幼児との関わり方を再考する上で有効であったか。

〔引用〕

- ・ 西岡 里奈・倉持 清美(2023). 「小学生と中学生の幼児に対する意識と養護性—— 小学校家庭科での異年齢交流に向けて」東京学芸大学紀要 総合教育科学系 (74: 451 - 458)
- ・ 綿引伴子(2013). 「1. 人と関わる 3. 現代家族の課題に迫る」. 荒井紀子編著, 『新版 生活主体を育む 探求する力をつける家庭科』(p. 120). ドメス出版.

〔主な参考文献〕

- ・ 筒井恭子(2021)編著, 「中学校 技術・家庭科 家庭分野 資質・能力を育む学習指導と評価の工夫」. 東洋館出版社
- ・ 文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター(2020), 「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 中学校 技術・家庭」